

# 喜望の郷 25周年

この度、平成28年11月に上総喜望の郷は設立25周年を迎えました。思い起こせば、平成3年11月より入所が始まり、翌年3月末までに順次50名の利用者が入所を終えました。私共大多数の親・子供共に親離れ、子離れをした事がない中、開所最初の親は、期待と不安と淋しさで何をしても「心ここにあらず」複雑な気持ちでした。初めて入所した日、子供と別れて帰りの車の中では後ろ髪を惹かれるような思いで、なかなか車を施設から動かせなかったのを覚えております。しかも当時は親同士が何も分からず右往左往するばかりでもありました。施設の職員数も現在の5分の1程度しかおらず、施設も開所当初で大変な時に発起人と施設近隣の保護者の皆さんを中心にお手伝いをしてくれたのを思い出します。

今では親も利用者も施設の生活にすっかり溶け込み、多くの行事に参加し、生活支援を受けながら利用者も伸び伸びと生活させていただいております。また現在は「おむかいさん」も新築され、喜望の郷本体も含め52名の利用者全員が個室で快適な生活をさせて頂いております。

さて、今回は平成29年度となり設立26周年目に入っておりますが、「25周年記念お喜楽フェス」を施設にて開催いたしました。入所・通所の利用者・職員はもちろんの事、多くの家族の皆さんが参加しました。職員の皆さんが中心となり模擬店を出し、様々な食事が提供されました。上総ゆうゆうの郷や上総あいらいの郷からも利用者・職員が遊びに来てくれたので、大いに盛り上がり大変美味しくいただく事ができました。また行事担当職員と施設長での寸劇がイベントを大いに盛り上げてくれ、とても楽しい一日を過ごす事ができました。

また家族会としても何かできる事はないか考え、25周年記念のお祝いでもあるので、紅白饅頭が良いのではと協力をさせていただく事にしました。この紅白饅頭は利用者・職員・家族にはもちろんの事、これまでお世話になった近隣住民の方にも感謝の気持ちとさせてもらいながら、これからもよろしくお祝い致しますと気持ちを込めさせていただきました。

今後も家族会一同、施設職員の方々に生活支援を委ねて、利用者の幸福を願いつつ、出来る事は微力ながら協力を惜しまず精いっぱい頑張っていきたいと思っております。

上総喜望の郷 家族会会長 市川 豊



上総喜望の郷 池田 進介

喜望の郷25周年のお祝いも兼ねてフェスのテーマを『25年分のおもひでぼろぼろ』として昔を振り返り、懐かしみながら調理実習を楽しく行いました。

ゆうやけ・あさやけの里は水餃子。大きな鍋で茹で、味付けはあっさりポン酢。とてもジューシーで美味しかったです。

そよかぜ・こもれびの里は男らしい焼きそば！大汗をかきながら必死に焼き続ける男性職員に惚れてしまう女性ももしかしたら居たかも!?

あおぞら・みどりの里はカラフルなゼリィや果物がたっぷり入ったジュース。見た目にも美しく、他の食品との相性抜群でした。

さくら・花みずきの里はこだわりの冷やしぜんざい。前日から準備が進められ、非常に手間のかかった一品でもとても上品な美味しさ。いぶき・だいちの里はウインナー。焼きそばの様な男らしさはありませんが丁寧に焼き上げてくれました。

あかねの里はうどん。甘辛く焼いた牛肉をのせるなどトッピングの種類が豊富で本当のお店のよう出来栄。

最後に中村施設長特製大きな肉団子入りのカレー。長い行列が出来、大鍋いっぱいのカレーはゆうゆう・あいらいの郷にもデリバリーし皆様から大好評でした。

宝探しゲームや餅つき、クイズ大会等非常に内容の濃いイベントになり、また家族の皆様からは25周年記念の紅白饅頭を頂きました。お腹いっぱいにも関わらず甘い物は別腹と食べ過ぎてしまいました。皆様のご協力のおかげで楽しい・美味しいお喜楽フェスにする事が出来ました。本当にありがとうございます。

**お喜楽フェス**  
6月25日開催

竹灯籠の夕べ

〜しっとり、ほんのり、やさしい明りで郷を〜

夏至の夜、彼方此方で行われるキャンドルナイト。長い昼間の余韻をロウソクを灯して楽しむ夜。

郷でもキャンドルナイトをとすれば竹灯籠しかない!! おむかいさん完成の時から考えていたので実行に移しました。

かねてより利用者さんが美化作業で竹を切り倒していた事もありその竹を短くして灯籠を作りました。

おむかいさんの庭に並べ、幽玄の世界。お盆の時に灯せば、迎え火かな…、送り火かな…。今後も数を増やして毎年続けたいその内、観光名所になってカメラマンが大勢来て郷前が、渋滞なんかしちやったりして…(笑)などと色々考えながら灯しました。

夏の庭 おかえりなさいの竹灯籠

思いめぐらす これからの郷

上総喜望の郷 小林 智子

